

4月1日時点の就職活動調査

企業の採用広報解禁から1カ月。学生の就職活動はどのように進んでいるのだろうか。4月1日現在の日経就職ナビ・学生モニターの就職活動状況について調査を行い、昨年度の解禁1カ月後にあたる2014年1月調査との比較や、先月(3月)調査と比較するなどして、特徴を分析した。

1. エントリー状況

○一人あたりのエントリー社数の平均は44.7社。今後の予定社数の平均は10.6社

2. セミナー・会社説明会への参加状況

○一人あたりの平均参加社数は34.1社。前年度より早いペースで参加

3. エントリーシートの提出状況

○エントリーシート提出者は78.1%。提出社数の平均は4.5社

4. 選考試験の受験状況

○筆記試験受験者71.3%、面接試験受験者49.8%。受験社数は平均して2~3社程度

5. 4月1日現在の内定状況

○内定率は7.1%。3月(3.8%)より3.3ポイント増。「調査・コンサルタント」が最多

6. これから活動の中心とする企業

○「内定企業よりも大きい企業中心」が過半数(57.0%)。「同規模中心」34.2%
○就職活動を終えたい時期は、8月に集中。「8月前半」29.2%、「8月後半」23.9%

7. OB・OG訪問の状況

○OB・OG訪問経験者は32.3%。訪問人数は「1人」が43.4%で最多
○未経験者の理由は「訪問の仕方がわからない」が35.9%で最多

8. 就職活動に関して、意見やアドバイスを参考にしている人

○「友人」が67.0%で最多
○「サークルやゼミの先輩」「大学の内定者アドバイザー」が前年調査より大きく減少

9. オンラインセミナーの視聴状況

○視聴経験者は59.4%。視聴社数は、ライブ中継2.8社、録画2.6社。前年より上昇

《調査概要》

調査対象 : 2016年3月卒業予定の全国の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答数 : 1,359人(文系男子416人、文系女子388人、理系男子389人、理系女子166人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2015年4月1日~6日
サンプリング : 日経就職ナビ2016就職活動モニター

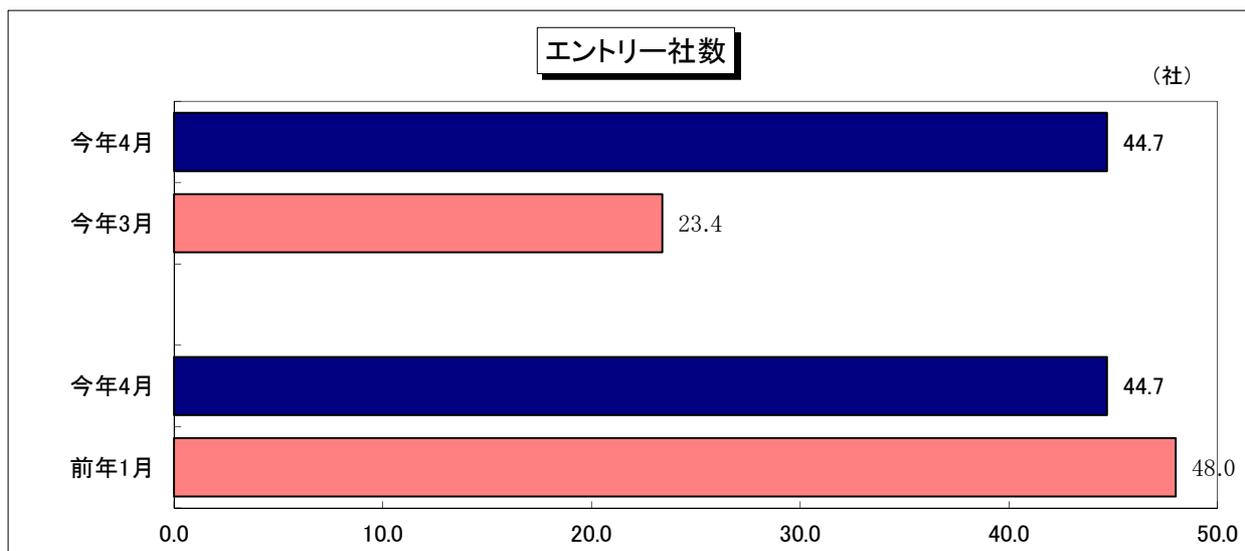
◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505/株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。
日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

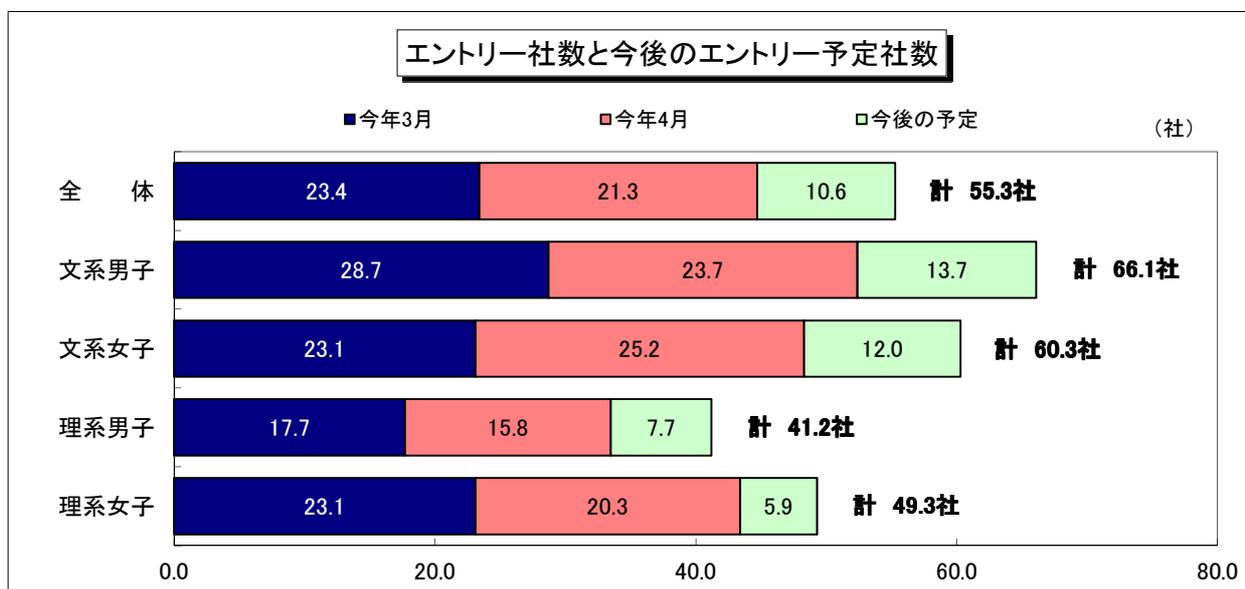
1. エントリー状況

3月1日に採用広報が解禁となって1カ月が経過し、2016年卒者の就職活動はどのように展開しているのだろうか。昨年度の解禁1カ月後（前年1月）との比較を中心に、全体的な活動量をみってみる。

まず、現時点でのエントリー社数であるが、平均で44.7社であり、これは先月（今年3月）時点での23.4社から約20社増加している。1カ月間で平均1日1社、志望企業を増やしている計算になる。これを、昨年度の解禁1カ月後（前年1月）の数値と比較してみると、昨年度は48.0社であったので、やや減少していることがわかる。昨年度のスタート時期よりも、今年は学生の志望企業の幅が絞り込まれているようであり、企業研究や業界研究をじっくり行っていることが推測される。



さらに、エントリー社数を今後どのくらい増やす予定かを尋ねたところ、平均で10.6社であった。現時点でのエントリー社数（44.7社）にこれを加えるとトータル55.3社となるが、これは例年の最終的なエントリー社数（約90社）と比べるとかなり少ない。学生は、現時点で考えている志望企業の範囲内でなんとか就職先を決定したいと思っていることがうかがわれる。文理男女別の比較では、文系男子がトータル66.1社で最も多く、理系男子が41.2社で最も少ない。

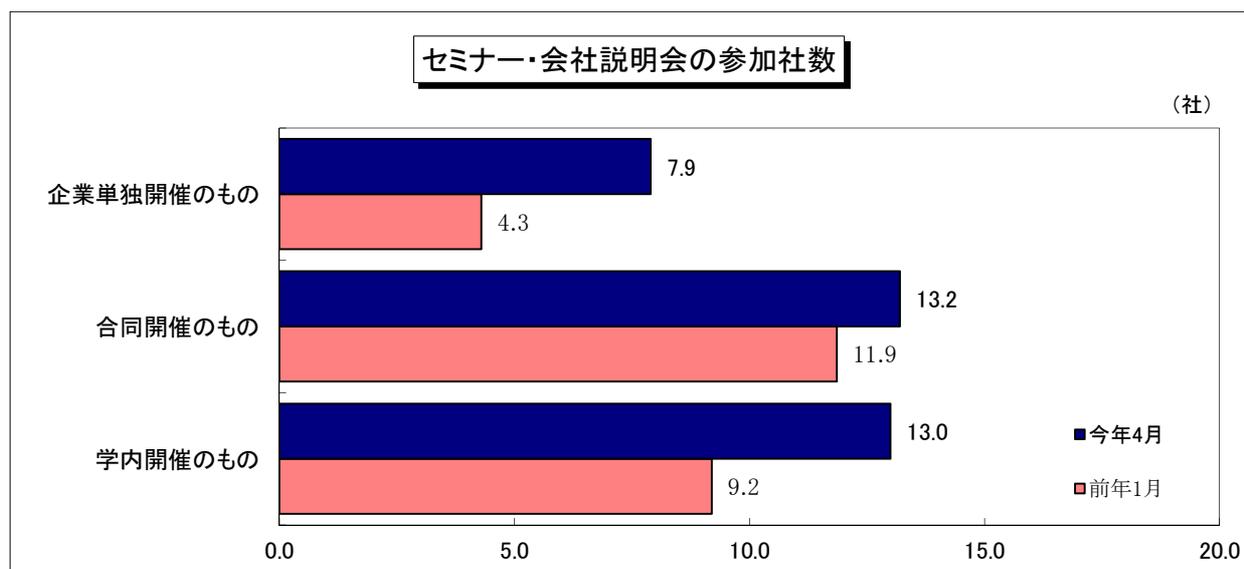


2. セミナー・会社説明会への参加状況

次に、セミナー・会社説明会への参加社数を見てみる。「企業単独開催のもの」は 7.9 社、「合同開催のもの」は 13.2 社、「学内開催のもの」は 13.0 社で、これらを合計すると 34.0 社となった。これを、昨年度の解禁 1 カ月後（前年 1 月）の数値とそれぞれ比較してみると、全ての開催形式において、昨年度の社数を上回っている。昨年度の合計値は 25.4 社なので、同じ 1 カ月という期間で 10 社近くも上回っていることになる。前述した「エントリー社数」においては、学生が昨年度よりも志望企業群を絞り込んでいる様子がうかがわれたが、実際にセミナー・会社説明会へ足を運んだ頻度では、昨年度よりも活発に活動している様子が見てとれる。就職活動の解禁時期が大幅に繰り下がった影響で、不安や戸惑いの表れからか、学生の就職意識や就職活動のペースが、昨年度から大きく変化していることがわかる。

これを文理男女別に比較すると、「合同開催のもの」では文系女子における社数（14.9 社）が他を上回っている。幅広い観点から就職先を探そうという意識の表れであるかもしれない。

一方、社数ではなく回数の平均を見てみると、「合同開催のもの」への来場回数は平均 3.4 回、「学内開催のもの」への来場回数は平均 4.6 回であった。単純計算すると、「合同開催のもの」では 1 回あたり平均 5 社、「学内開催のもの」では平均 3 社を訪問していることがわかる。



セミナー・会社説明会の参加社数

(社)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
企業単独開催のもの	7.9	9.7	8.4	6.0	6.6
合同開催のもの	13.2	14.5	14.9	10.8	11.2
学内開催のもの	13.0	14.4	13.3	12.3	10.2
合計	34.0	38.6	36.6	29.1	28.1

合同開催・学内開催参加回数

(回)

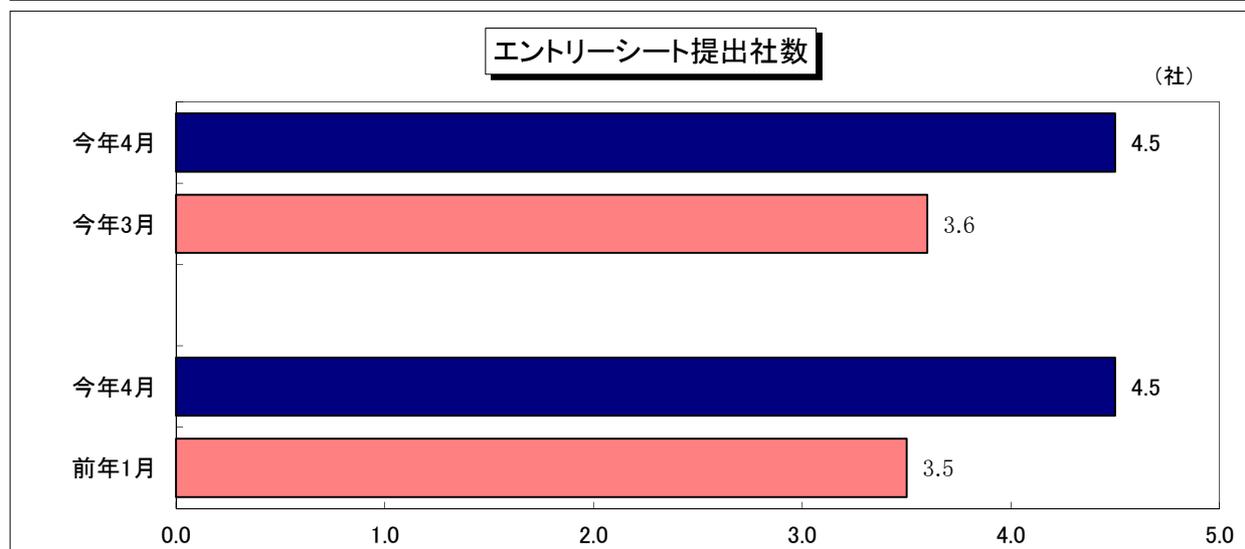
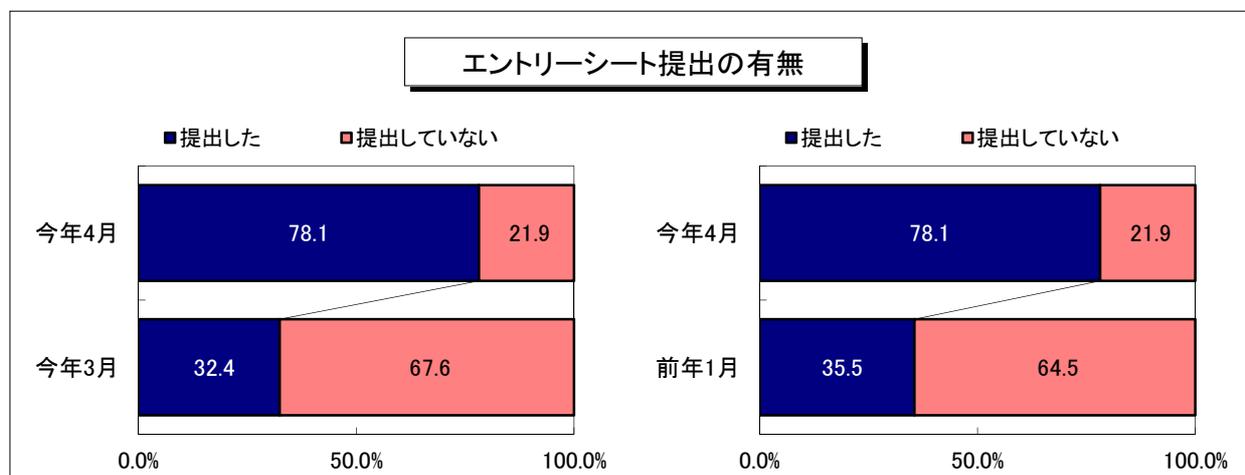
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
合同開催のもの	3.4	3.8	3.9	2.9	2.7
学内開催のもの	4.6	5.1	5.2	3.8	3.6

3. エントリーシートの提出状況

エントリーシートの提出状況を尋ねてみたところ、エントリーシートを提出した割合は、前回調査（今年 3 月）の 32.4%から 78.1%へと進展した。しかし、特筆すべきは昨年度（前年 1 月）との比較であり、昨年度は解禁後 1 カ月の時点で 35.5%だった提出率は、今年は 78.1%と大きく上昇している。

エントリーシートを提出した社数を見ても、昨年度（前年 1 月）は平均 3.5 社であったのが、今年はこの時点で 4.5 社に上昇している。今年の就職戦線は、時期の繰り下げによって学生の活動ペースがそのまま後ろにずれ込むことにはなっておらず、例年よりもかなりハイペースで進行しているのが特徴と言える。

エントリーシート提出状況を、文理男女別に比較してみたところ、提出した割合にそれほど大きな違いはないが、エントリーシート提出社数では理系女子が 6.3 社となっており、他を上回っている。



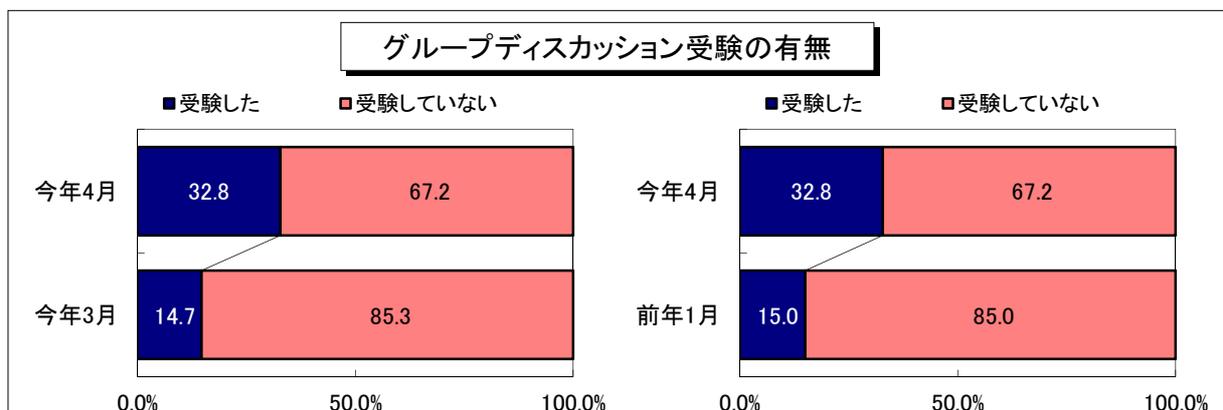
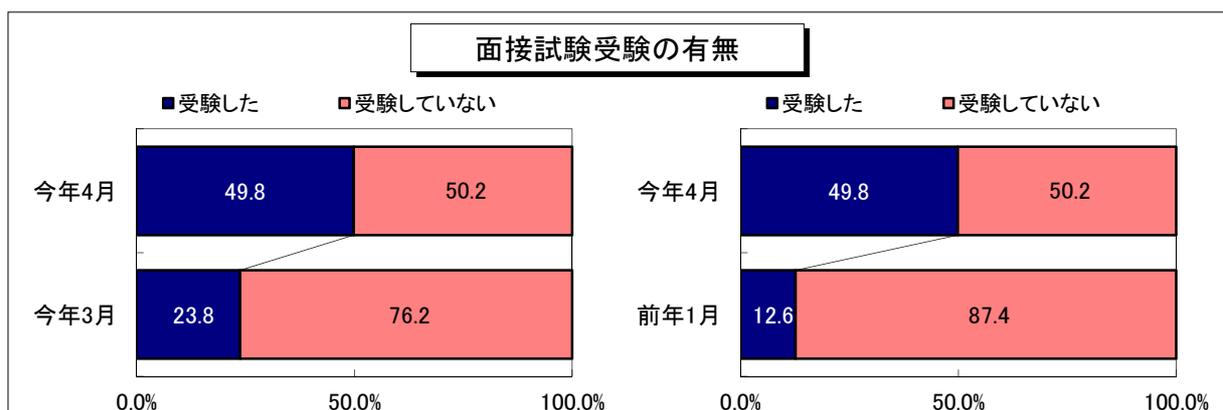
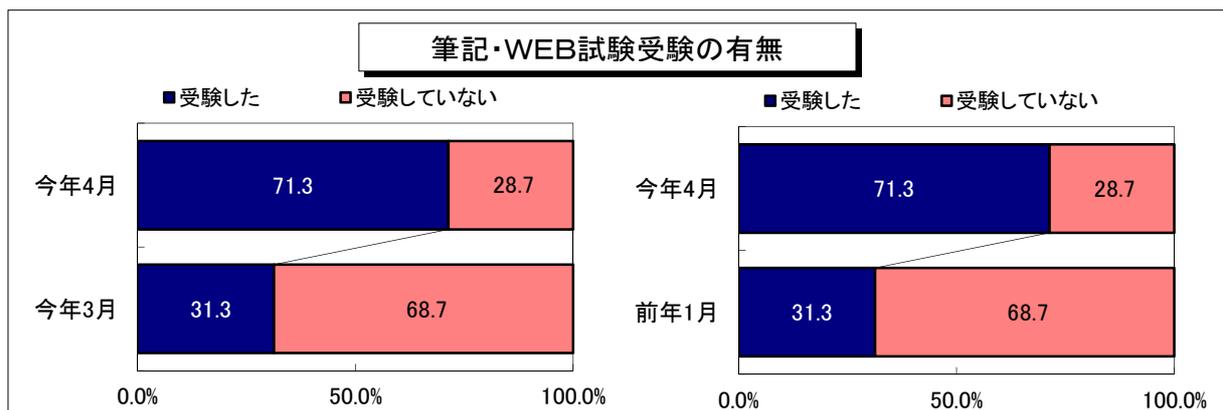
エントリーシートの提出状況

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
提出した割合	78.1%	79.6%	79.1%	75.3%	78.9%
提出社数/平均	4.5社	4.3社	4.4社	4.0社	6.3社

4. 選考試験の受験状況

次に、選考試験の受験状況を調べてみた。ここでも、昨年度（前年 1 月）と比べると、かなり早いペースで活動が進行していることがわかる。「筆記・WEB 試験」は、昨年度 31.3%から今年は 71.3%へと受験率が大きく上昇しており、「面接試験」は、昨年度 12.6%から 49.8%と、既に約半数の学生が面接試験まで受験していることがわかった。「グループディスカッション」は昨年度 15.0%から今年は 32.8%であり、「面接試験」の受験率を下回った。

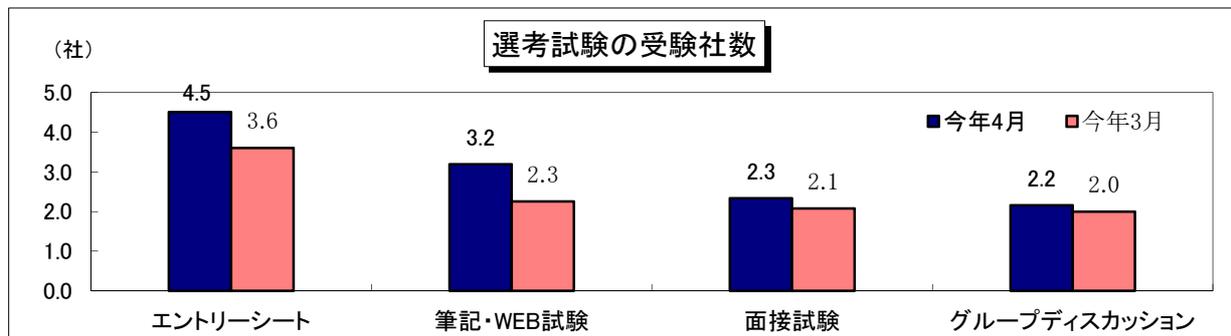
これを文理男女別に比較してみると、理系男子の選考試験の受験率は、総じて低くなっている。



選考試験の受験状況

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
筆記・WEB試験を受験した	71.3	72.4	71.9	67.4	76.5
面接試験を受験した	49.8	53.1	51.0	45.8	48.2
グループディスカッションを受験した	32.8	35.6	35.3	26.0	36.1

一方で、選考試験を受験した社数を見てみると、いずれの試験もまだ 2~3 社程度であり、前回調査 (今年 3 月) と比べてほとんど大差がない。要するに、選考試験の受験者数は昨年度よりもかなり増えているが、それは一部の企業の選考試験によるものだということがわかる。



選考試験を受験した社数

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
筆記・WEB試験/平均	3.2 (2.1)	3.2 (2.2)	3.0 (1.8)	3.3 (2.2)	3.3 (1.9)
面接試験/平均	2.3 (1.9)	2.7 (2.1)	2.3 (1.6)	2.0 (2.1)	2.2 (1.2)
グループディスカッション/平均	2.2 (1.7)	2.3 (1.8)	1.9 (1.5)	2.5 (1.8)	1.7 (2.3)

※()内は 2014 年の同調査での 1 月 1 日現在の数値

5. 4 月 1 日現在の内定状況

現時点で内定を得ている学生は 7.1%で前回 (3 月) の 3.8%から 1 カ月で 3 ポイント以上増えた。しかし内定社数をみると、今回の調査結果は 1.2 社であり、前回 (3 月) と全く同レベルである。前述した通り、一部の企業の選考が進んだ結果、内定者数は増えているが、その企業数 (内定社数) そのものは増えていないという現象が起きている。現在選考中の企業数は、平均 2.9 社で、これらの企業がどのタイミングで内定を出すかが興味深い。

4 月 1 日現在の内定状況

*「内定」には、内々定を含む

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり	7.1 (3.8)	8.7 (4.1)	5.9 (2.1)	6.4 (4.9)	7.8 (4.1)
内定なし	92.9 (96.2)	91.3 (95.9)	94.1 (97.9)	93.6 (95.1)	92.2 (95.9)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	8.3 (11.1)	17.4 (25.0)	20.0 (25.0)	23.1 (25.0)
	終了したが複数内定保持	2.1 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	7.7 (0.0)
	進学などの理由で活動を中止	1.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	4.0 (0.0)
	就職活動継続	81.4 (79.6)	91.7 (88.9)	82.6 (75.0)	72.0 (75.0)

(社)

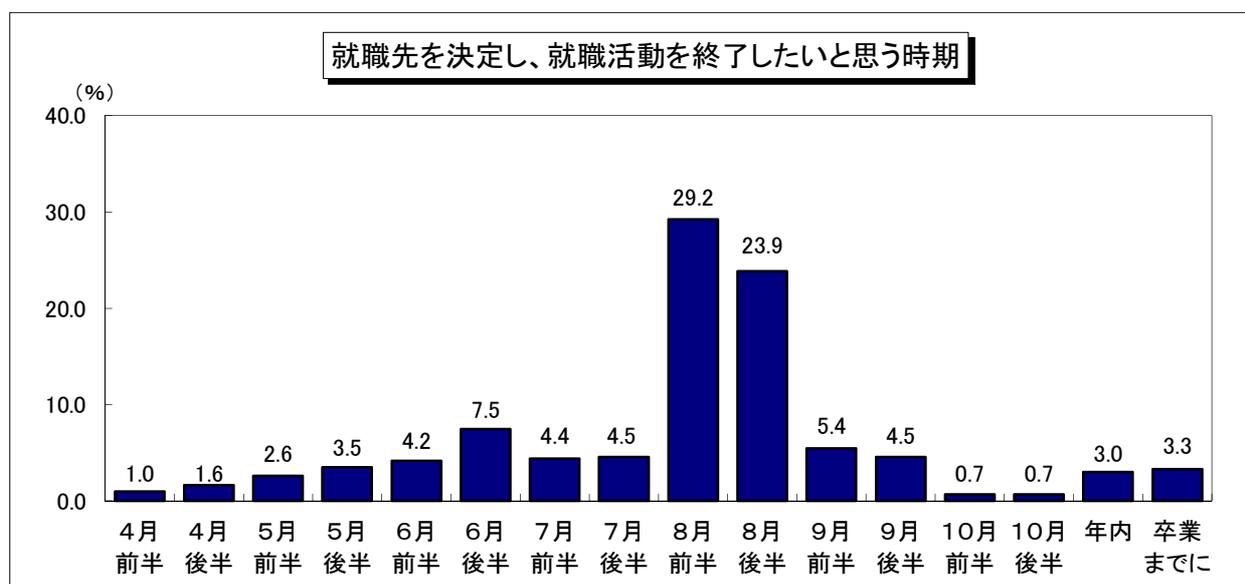
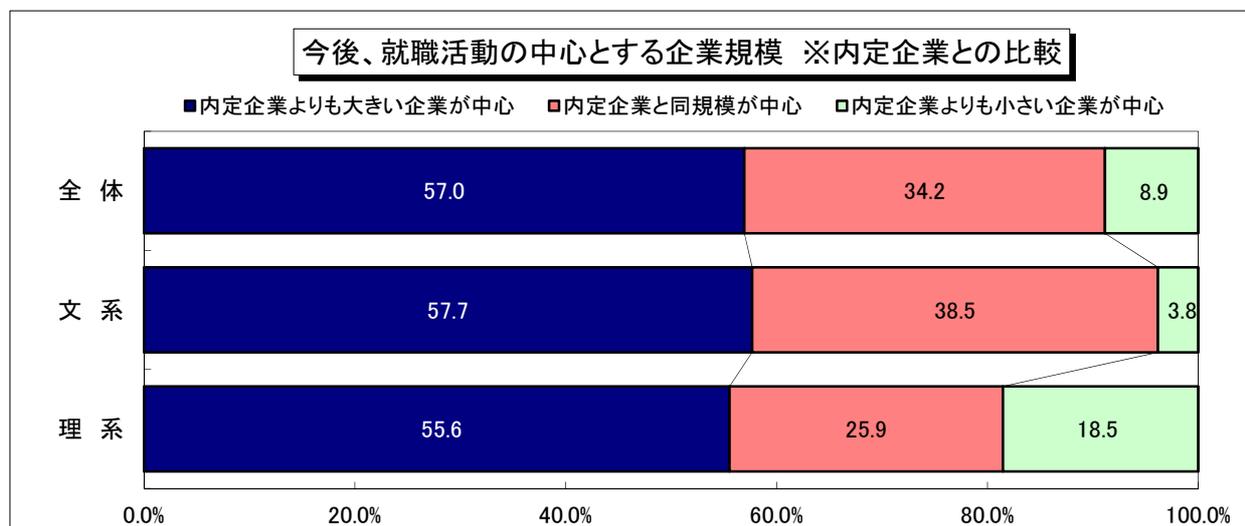
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均	1.2 (1.2)	1.2 (1.2)	1.2 (1.3)	1.2 (1.2)	1.1 (1.1)
現在選考中の企業社数/平均	2.9	3.0	2.7	2.8	3.6

※()内は 2015 年の同調査での 3 月 1 日現在の数値

6. これから活動の中心とする企業

既に内定を得ている学生に、これから就職活動する上で中心とする企業について尋ねてみた。その結果、「内定企業よりも大きい企業が中心」と答えた割合が、57.0%と半数を超えた。「内定企業と同規模が中心」とする割合は 34.2%で、「内定企業よりも小さい企業が中心」とする割合はわずか 8.9%であった。大半の企業がまだ選考活動を進めておらず、大手主要企業が 8 月 1 日の選考解禁をひかえている中で、学生の意識も大手企業に向いていることが想像できる。

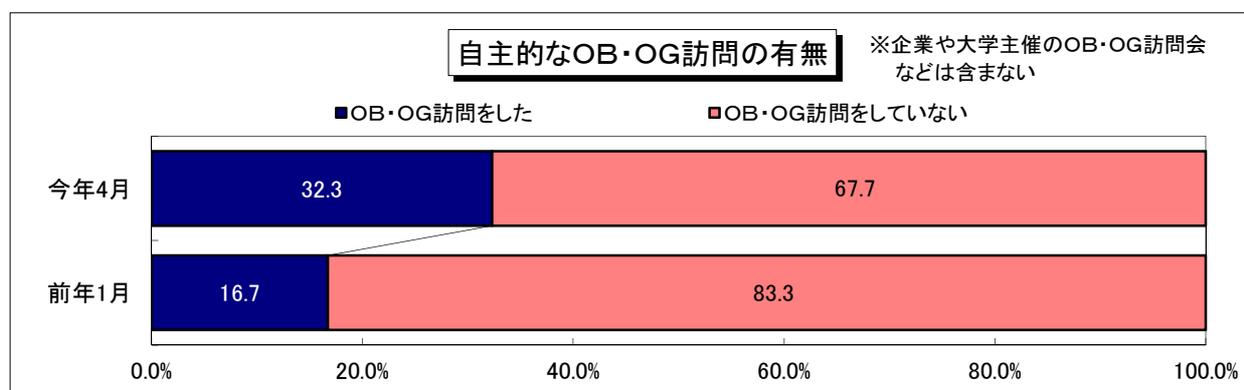
就職活動を継続している学生に、就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期を尋ねたところ、「8 月前半」と答えた割合が 29.2%と最も多く、これに次いで「8 月後半」が 23.9%と続いた。やはり、大手企業の選考開始を見据えていることがわかる。また、8 月より前の時期においては、「6 月後半」とする割合が 7.5%とやや高かった。4 月～7 月の間に終了させたいとする割合は、合計 3 割近く (29.3%) にのぼり、できれば早期に就職活動を終了させたいと思う学生の意識がうかがわれる。今後、選考を開始する企業が急激に増えてくることが予想されるが、多くの学生は「8 月」の山場に向けて、目標を定めているように感じられる。



7. OB・OG訪問の状況

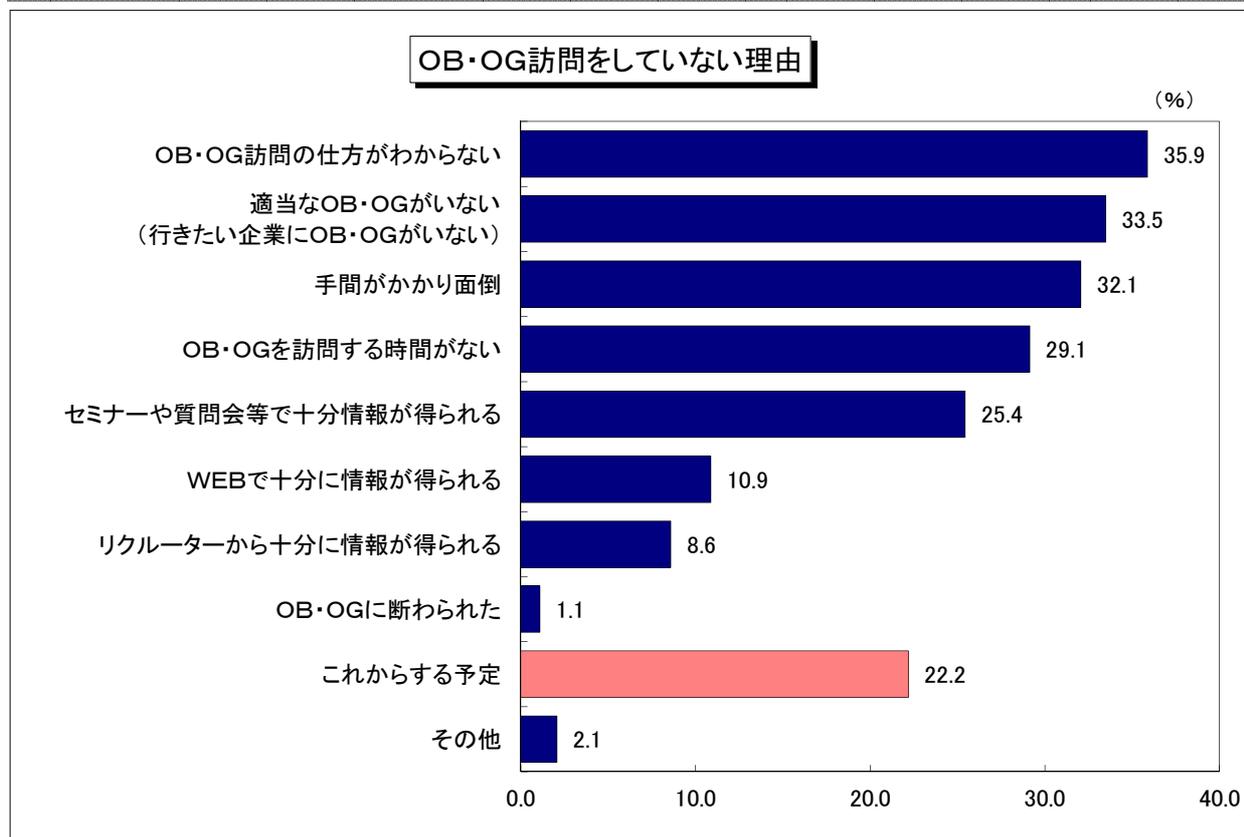
企業の採用意欲が高まっていることを背景に、今年の就職・採用戦線においては、リクルーターやOB・OGの活躍が盛んになると言われているが、そんな中で学生の活動内容に変化はあるだろうか。自主的に訪問したOB・OGの人数を尋ねたところ、「訪問した」と答えた割合は32.3%で、昨年度（前年1月）の16.7%から大きく上昇した。ただし、その人数は「1人」が43.4%で最も多く、次いで「2人」（23.7%）と、決して大人数に会っているわけではない。

一方、「訪問していない」とした学生（67.7%）に、その理由を尋ねたところ、「訪問の仕方がわからない」（35.9%）、「適当なOB・OGがない」（33.5%）が上位にきたが、「これからする予定」（22.2%）と答えた学生も比較的多く存在した。企業にとっては、OB・OGを上手く活用することが、今後の採用活動を成功させる鍵となるかもしれない。



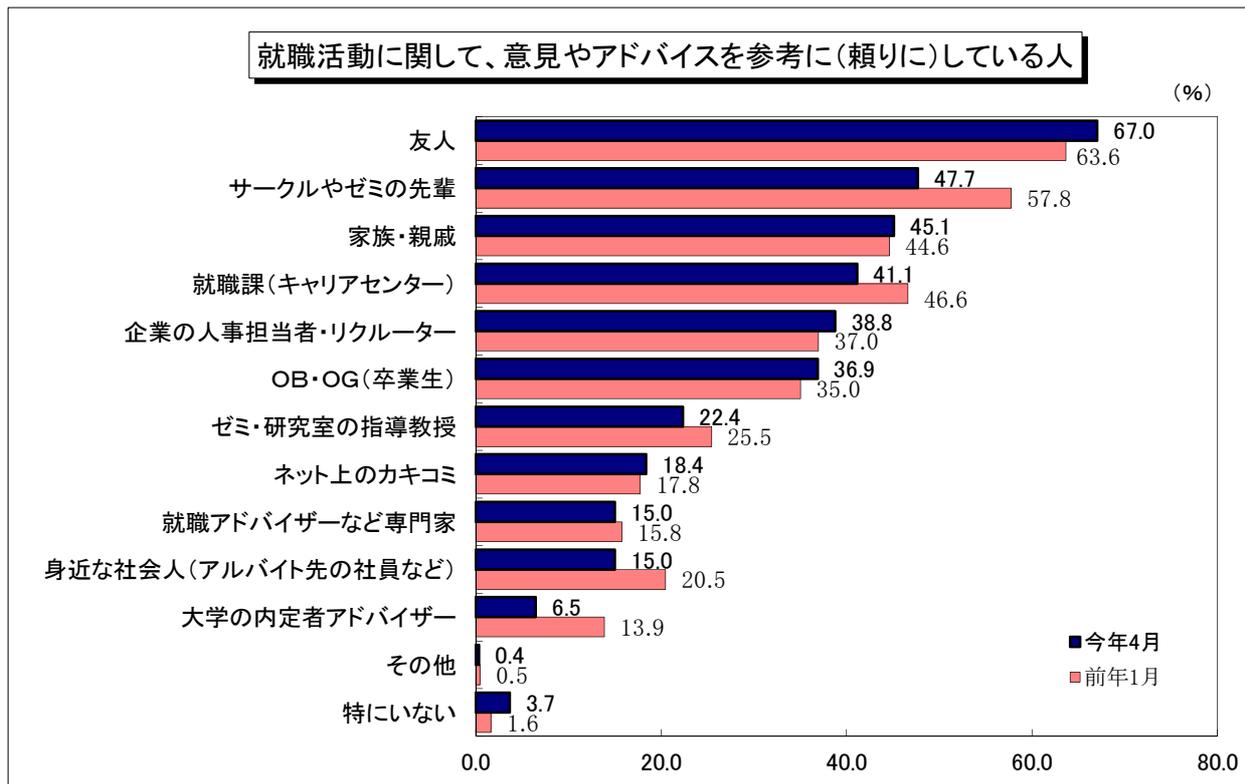
<訪問人数の内訳>

	平均	1人	2人	3人	4人	5人	6～9人	10人以上
全 体	3.0人	43.4	23.7	9.1	7.1	6.4	4.8	5.5



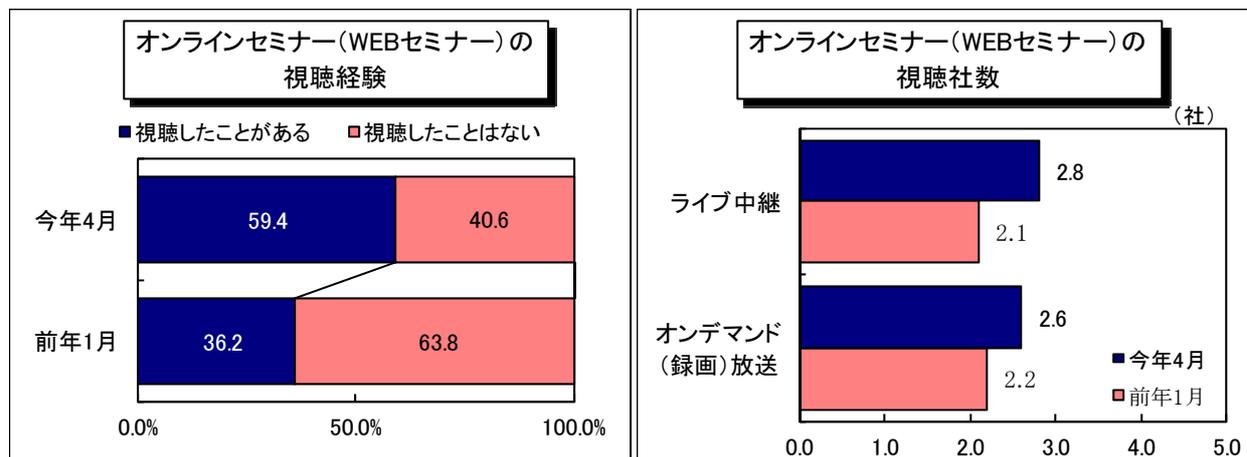
8. 就職活動に関して、意見やアドバイスを参考にしている人

OB・OGへの期待が高まりつつある一方で、学生が就職活動に関して誰の意見やアドバイスを参考にしているかを尋ねてみた。その結果、親や教授といった「大人」ではなく、「友人」(67.0%)が最も多かった。昨年度(前年1月)と比較すると、「サークルやゼミの先輩」や「大学の内定者アドバイザー」といった、1つ上の先輩に頼る割合が大きく減少している。現時点で彼らは既に卒業しているためであるが、ここにも就職活動時期が繰り下がった影響が見られる。学生にとってはライバルでもある身近な友人が、一番の頼りの存在であることがわかる。



9. オンラインセミナーの視聴状況

会社説明会の1つの形式として、オンラインセミナー(WEBセミナー)を視聴したかどうかを尋ねたところ、その割合は59.4%を占め、昨年度(前年1月)の36.2%から大幅に上昇した。その内訳は、「ライブ中継」2.8社、「オンデマンド(録画)放送」2.6社となっており、いずれも上昇している。リモート・遠隔地でのセミナー参加が、一般的になりつつあることがわかる。



■就職活動に関して思うこと

- 思っていたよりも現状は楽しめることが多い。しかし、今後の見通しが不明瞭な点にはいやだという気持ちがある。 <文系男子>
- 徐々にエントリーシートを提出し始めるなど、いよいよ始まっていくのだなと感じています。「売り手市場」と言われてはいますが、実際のところ不安は大きいです。就職活動における最終的なゴールは、「自分が納得できること」と思っているので、とにかく足を使って色々な企業を見て、多くの人に会いに行こうと思っています。ただ、徐々に業界・企業を絞る段階にある中で、まだ迷いもありその点は不安です。 <文系女子>
- エントリーシートの提出・書類選考が始まり、その結果がまだ出ていないため緊張している。結果が出始めれば、対策がしやすくなるので待ち遠しい。 <理系女子>
- 推薦のタイミングが各企業バラバラでやりにくい。 <理系男子>
- セミナーに毎日参加していますが、参加するという事に満足してしまっていることや、長期にわたるので中だるみしないかが心配です。 <文系男子>
- 長期化していると感じております。あと、8月1週目に面接が集中した場合、どのように対応すればよいか悩んでおります。 <理系男子>
- 指針を守らない企業があるのは知っていたけど、3月解禁の企業は選考スケジュールも同じようなものだと思っていた。ところが4月上旬にWebテストを受けさせる企業もあって、ビックリしている。 <文系女子>
- 現段階では楽しく就職活動をすすめられていると思う。ただ、もう少し早くから始めてほしかった。研究活動の方にしわ寄せがきている感じがする。 <理系女子>
- 企業の方もスケジュールに戸惑っているところがあるようなので、学業との両立などかなり難しさを感じています。 <文系男子>
- インターン組と3月開始組に差が付きやすいと思っている。 <文系男子>
- 採用活動時期が遅くなったため、現時点で修士での研究がほとんど進められていない。今後も心配で、就活と研究の時間配分、ストレスコントロールに気をつけたい。 <理系男子>
- 情報が氾濫しすぎていまだに情報のコントロールができていない。選考時期をどの企業も明確に示さないで、いつまでに内々定が得られるかが予測できない。 <文系男子>
- 色々な企業ですでに水面下で選考が始まっているのを聞くと、うかうかしてられないと焦る。 <理系男子>
- 夏に長期のインターンにいけばよかったと後悔しました。1、2年のころから就職活動を視野に入れておけばよかったです。 <文系男子>
- 今年は売り手市場と呼ばれている就活だけけど、実際は学生の中で格差があると最近改めて感じた。周りで内定が出た or もらえそうとの声が出始めたので、春休み明けに同期に会って話をするのが少し怖い。 <文系女子>
- 理系学生にとってはとても厳しい。正直、4月以降平日の昼間の説明会や選考は参加が難しい。 <理系女子>
- 選考時期がばらばらで内定企業のキープができない。 <理系男子>
- エントリーシートを目の前にすると、まだ自己分析が足りないことを実感する。自分の強みとやりたいことに完全にマッチする仕事をまだ探せていない。 <文系女子>
- 内定を頂いた方がいいが、早く内定承諾を迫られる会社が多い。 <文系男子>
- 少し息切れ気味で、興味のあるところや推薦がとれそうなところ以外は受けるのが面倒になってきているが、面接が苦手なので、練習にいくつか受けないといけないことを痛感し、ちょっと嫌になっている。 <理系男子>
- 早々に就職活動を終わらせて、学生最後の一年をアルバイトで貯金をしたり、研究を進めたり、長期で海外に行く等、社会人ではできないことをやる時間を確保したい。 <文系女子>